

していて、多少すべりやすい。

すぐに2.5m程の階段状の滝が出てくる。滝として記録するのをためらう程度のものである。その上に3m2段の滝がある。その後、沢はすぐ伏流となり、しばらくして再び水が出てくるが、水量は少ない。

さらに進むと、沢は再び伏流となり、やがて沢の様相をもたなくなってしまう。その上部は尾根と尾根の間のくぼ地という感じで続くが、ヤブの中である。進行を開始して40分程で進行を打ち切り、下降する。

当初地図上から加藤谷川の左俣であろうと推測していたが、沢の様相、水量などからして、あまりにも貧弱なので、左沢として整理した。左沢進行終了後に本流を30分程進行し、地図と照らし合わせたが、目的の沢であることは間違いないと思われる。間違っていたとすれば、お許し願いたい。(記)

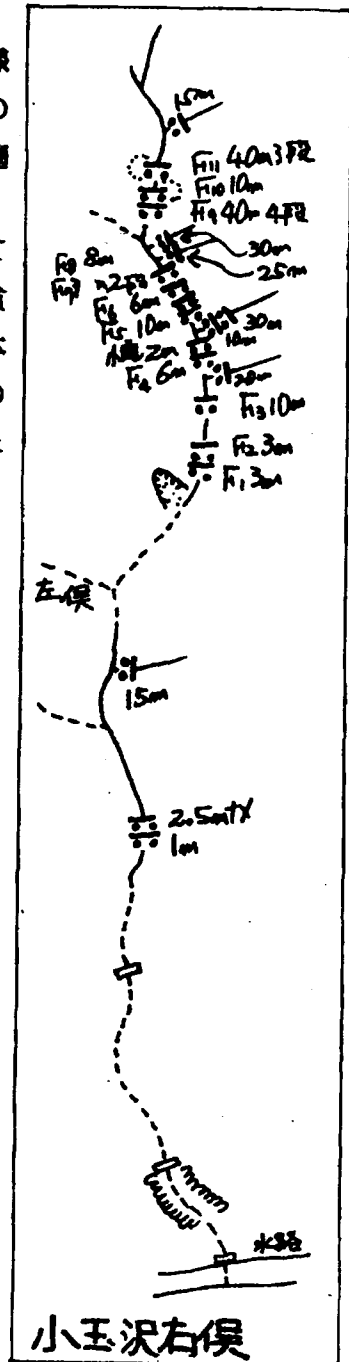
[タイム] ヨロイ沢出合(8:05)→ニゴリ沢出合(8:15)  
→左沢出合(8:40, 8:50)→進行終了(9:30)  
→左沢出合(11:10)→ヨロイ沢出合(11:45)

1985年8月25日  
小玉沢 L

出合の砂防ダムを越えると、その先はゴルジュとなっている。これは先が期待できそうだと、身仕度もそこそこに出発。

ゴルジュの出口に15m程の高さの2個目の砂防ダムがあり、左岸を登って上に出ると、なんと水がない。えんえんと続く河原。石の上をあちらに飛び、こちらに飛びして、二俣へ。ここまで水が少し出たり、かれたりである。

二俣で小休止後、右俣に入る。しばらくすると、右岸にガレ場があり、そこから押し出してきた土砂で沢が埋っている。ここまでは期待に反して全く平凡な沢であったが、この先は沢の様相がガラリと変り、結構水量もあるようになった。



まず、2つ続く3mの滝は軽くパス。F<sub>10</sub>もなんなく登る。そしてF<sub>9</sub>~F<sub>7</sub>まで滝が続く。このうちF<sub>7</sub>30mだけは右岸を捲き、アップザイレンで沢に戻る。その先はナメとなっていた。

沢が右に曲がった先に、また大きな滝が出てくる。まず、F<sub>40</sub>4段滝。一番上の10mが少し難しく、左岸より取り付き、水に戻る時ハーケンをうち、A<sub>1</sub>にて登る。F<sub>11</sub>3段40mの一番上の10mもザイルを出して取り付こうとしたが、ポロポロと岩がはがれてしまうので断念。右岸を捲く。

沢はだんだん急傾斜となってきた、水も少なくなってくる。上へ上へとゆくと、水もなくなり、ヤブこぎとなって稜線の登山道に出る。登山道は廃道に近い。特に唐沢山付近がわかりづらかった。(記)

[タイム] 小玉沢出合(7:40)→二俣(8:20, 8:30)→沢終了(11:15)→稜線(11:50)→唐沢山(12:00)

1985年8月25日  
番屋川 I.

中ノ坪部落はずれの墓地そばに車を止めて、番屋川にそって引かれている用水路ぞいの踏跡をたどって沢へと向かう。

7:45遡行開始。沢には全く水の流れがないうえ、沢幅もそれほど広いとはいえず、これはもう全く平凡な沢だという先入観を持ってしまった。

鋼製堰堤を越え、出合から30分近く歩いた所で砂防ダムに出る。中ノ坪部落からここまで林道がのびてきた。小休止して出発。

今まで明るかった沢が、樹林帯に入ったことで急に暗くなり、水流も出てきた。所々小さなゴルジュ状となったりして、滝がかかってもおかしくない溪相をしている。だが、いかんせん、沢は荒れており、小さな滝などがあったとしても押し出してきた土砂が埋めつくしている感じである。

8:40待望久しい滝に出会う。4mのナメ状滝。下部が埋まっているのが残念である。軽くクリヤーすると、その先にも10m二段の滝があった。

